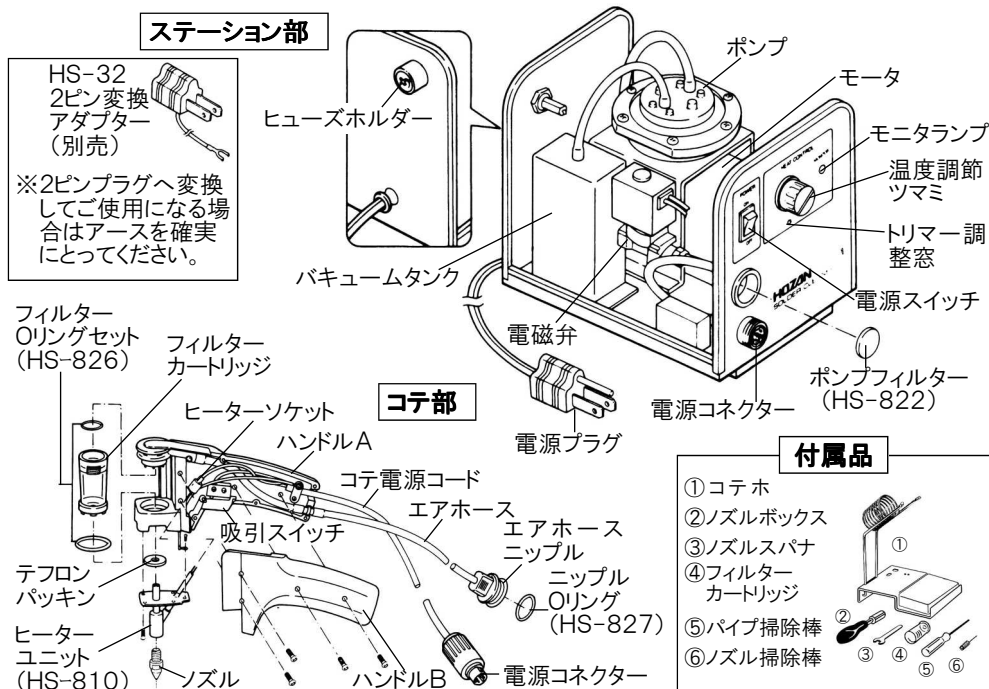


HS-801 ハンダ吸取機

このたびはホーザン HS-801 ハンダ吸取機をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。この取扱説明書をよくお読みになり、正しくお使いください。また、お読みになったあとも大切に保管してください。

各部の名称と入組細



仕様

定格電圧・周波数	AC100V 50/60Hz
消費電力	140W
ヒーター	セラミックヒーター
設定温度	300~480°C
標準ノズル	HS-812
ポンプ	ダイヤモンド式
最大吐出量	18L/分(60Hz)
真空到達度	80kPa

外形寸法	ステーション部 173(W)×170(H)×220(D)mm
	コテ部 120(W)×160(H)×35(D)mm
重量	ステーション部 5.7kg コテ部 160g

注意文の警告マークについて

この取扱説明書ではご使用上の注意事項を次のように区別しています。

⚠警告 …重傷をとまなう重大事故の発生を想定してのご注意

⚠注意 …傷害や物的損害を想定してのご注意

なお、**⚠注意** として記載されていても、あるいは特に記述がなくても、状況によっては重大な結果をまねく恐れがあります。正しく安全にご使用ください。

ご使用上の注意

⚠ 警告

1. 電源電圧は、交流100Vをご使用ください(50Hz、60Hz共用)。規定以上の電圧を加えると、故障や火災の原因になります。
2. 電源を入れたまま長時間放置すると、ヒーター寿命を短くするばかりか思わぬ事故につながる恐れがあります。使用後は必ず電源を切ってください。
3. ノズルからヒーターユニットおよびヒーターユニット受け部の黒いプラスチック部分までは、高温になりますのでご注意ください(ノズル部で480°C)。特に、発熱部を手・顔など人体の各部、およびアルコール・塗料など揮発性の高い化学薬品、また、紙・木・プラスチックなど可燃物に近づけないでください。
4. コテに接続しているエアホース・電源コードには、発熱部を接触させないでください。
5. 感電・ヤケド防止のため、ヒーター交換は必ず電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜き、冷却したのちに行ってください。
6. ノズル交換は、必ず電源スイッチを切り、冷却したのち付属のノズルボックスを用いて行ってください。また、ノズルは下向きにして作業してください。

⚠ 注意

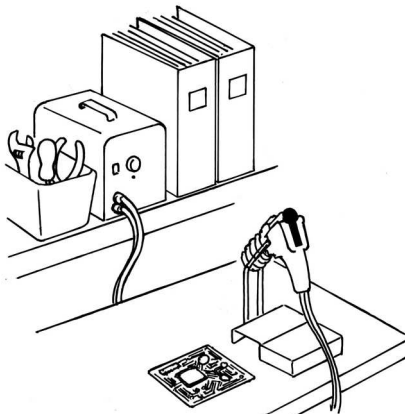
1. コテホルダーおよびステーションは、振動のない水平で安定した場所に設置してください。ステーションは横にしたり、逆さにしたり、また衝撃を与えたり、落下させたりしないでください。
2. ヒーターはセラミックでできています。水などで急速に冷却しないでください。また、落としたり、強い衝撃を与えたりしないでください。破損(断線)する恐れがあります。

ご使用方法

- 1 ステーションにコテの電源コネクタとエアホースニップルを接続します。



- 2 コテホルダーとステーションを水平で安定した場所へ設置します。
コテホルダーとステーションを分離して設置すると机が広く使えます。



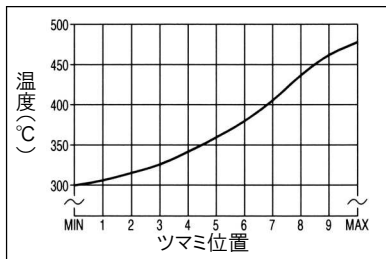
- 3 コテをコテホルダーにセットし、電源プラグをコンセントに出しこみ、電源スイッチを入れます。
バキュームタンクにあらかじめ負圧をかけるために約3秒間ポンプが作動します。

- 4 希望の温度になるように温度調節ツマミをセットします。
(右グラフ「温度調節ツマミ特性」参照)

⚠ 注意

温度が高いほど作業性はよくなりますが、部品や基板を傷める恐れがあります。

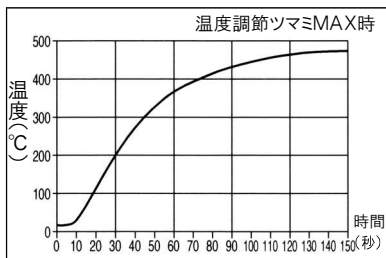
温度調節ツマミ特性



- 5 ノズル温度が設定温度に達するまで、しばらくお待ちください。約2分で温度が安定します。
(右グラフ「立ち上がり温度特性」参照)

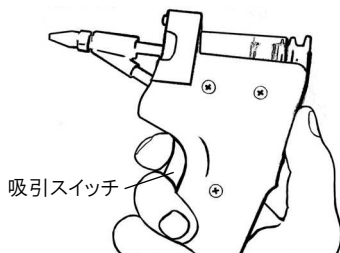
■モニタランプの点灯について
電源スイッチを入ると点灯し、設定温度に近づくと点滅をはじめます。
設定温度に達すると速いピッチで点滅をくり返します。

立ち上がり温度特性



ご使用方法

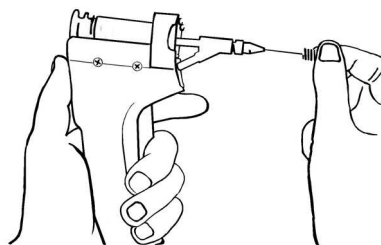
- 6 新品のノズル(チップパーツ用ノズルを除く)にはハンダをのせていますので、このハンダを吸引してください。吸引スイッチを押しているあいだ、ポンプが作動して吸引されます。また、スイッチをもどしたあとも約3秒間ポンプが作動します。(次の作業に備え、バキュームタンクにあらかじめ負圧をかけるための本機独自の機構です。)



- 7 吸引スイッチをもどし、ノズルにノズル掃除棒を差し込み、詰まりが無いことを確認します。

⚠ 注意

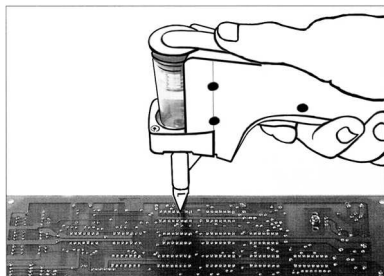
- 確認中は吸引スイッチに指が触れないようにご注意ください。
- ノズルは高温になっています。ヤケドにご注意ください。



- 8 ノズルをピン(リード)にあてがい、ハンダがとけ始めたら軽く左右にゆさぶりながら吸引スイッチを押します。

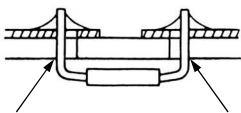
⚠ 注意

コテは慎重に取り扱ってください。落下させるなど衝撃を与えると、セラミックヒーターを断線(破損)する恐れがあります。

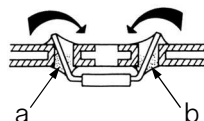


ハンダ吸い取りのコツ

ピン(リード)と基板パターンとは図のように必ず一部が密着していますので、ハンダが溶解したらノズルを軽く左右にゆさぶりながら吸い取ります。

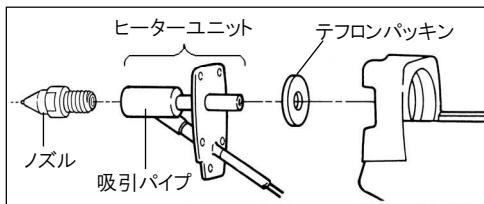


スルーホール基板の場合は、図のa部、b部のハンダが溶解したことを確認して、ピン(リード)を矢印の方向に起こすようにしてa部、b部のハンダまで吸い取ります。



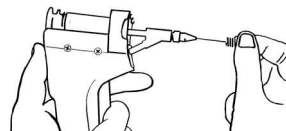
整備方法

※ノズル・パイプ内部の掃除は、コテに通電のうえ、300℃程度(ツマミ位置2～3)の温度に加熱すると作業がしやすくなります。



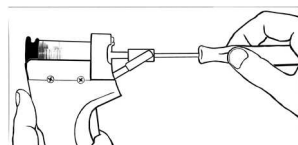
■ノズルの掃除

ノズルには、金属化合物・フラックス酸化物などのスケールがたまりやすいので頻繁に掃除してください。また、ノズル先端もコテ先クリーナーで掃除してください。



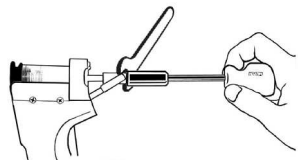
■パイプ内部の掃除

パイプ内側に金属化合物、フラックス酸化物などのスケールが付着して吸引力が落ちることがありますので、定期的に掃除してください。



■ノズルの交換

ノズルは消耗品です。先端面の摩耗、キズにより吸引力が弱まります。その場合は新しいノズルと交換してください。(ヒーターユニットの平行面をスパナでつかみ、ノズルボックスでノズルを回してください。)



本機は、ノズル先端のハンダメッキに鉛フリーハンダを使用しており、鉛フリーハンダの吸引にも十分ご使用いただけます。鉛フリーハンダの場合、通常の鉛入りハンダに比べて融点が高いため、ノズル内部や吸引パイプ内に付着しやすい傾向があります。掃除棒による掃除や、フィルターカートリッジの交換を通常より早めにされることをおすすめします。

HS-830 メンテナンスキット

よく使う補修部品や工具類をパーツケースにセットしたメンテナンスキットを用意しています。ご利用ください。



セット内容13点

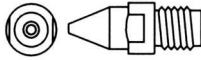
HS-810	ヒーターユニット
HS-812	ノズル(1.0mm φ)
HS-821	フィルターカートリッジ(×10)
HS-822	ポンプフィルター(×5)
HS-826	フィルターOリングセット(×2)
HS-827	ニップルOリング(×2)
	ノズルボックス
	ノズルスパナ
HS-801-39	ノズル掃除棒
HS-801-36	パイプ掃除棒
	調整ドライバー
	作業手袋
B-50-EF	パーツケース

ノズルの種類

本機に標準装備のノズルは口径1.0mmのHS-812です。これ以外に以下のものを用意しています。

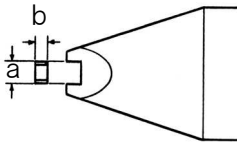
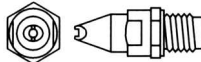
とくに、チップパーツ用ノズルは特殊形状により、チップパーツをまるごと吸引でき、大変便利です。目的に合わせてお選びください。

品番	ノズル口径
HS-811	0.8mm φ
HS-812	1.0mm φ
HS-813	1.6mm φ
HS-815	1.3mm φ
HS-814	0.75mm φ



チップパーツ用ノズル

品番	適応チップ(a×b)
HS-816	2×1.25mm
HS-817	1.6×0.8mm
HS-818	3.2×1.6mm



チップパーツ用ノズルは上記サイズに対応します。他のサイズには使用できません。

■チップパーツ用ノズルの取り付け

1. チップパーツ用ノズルには方向性があります。指の力でねじ込んだところから少しもどして、作業に適した向きにします。
2. ノズルの向きを保持しながら、中央部のロックナットを付属のスパナで締め付けてください。このとき、コテホルダー台座部分のレンチ穴をご利用ください。



フィルター交換

■コテ部

- **ペーパーフィルターの交換**(1500～2000ポイントの吸引が目安です。)

フィルターカートリッジ内にハンダがたまったら、写真のように黒い樹脂部の根元を押さえてフィルターカートリッジを取り外し、ハンダと古いペーパーフィルターを捨てます。新しいペーパーフィルターをセットし、コテ部に元どおりセットします。

補修部品は **HS-825 ペーパーフィルター** とご利用ください。10回分入っています。

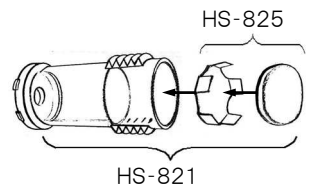


- **フィルターカートリッジの交換**

フィルターカートリッジが激しく汚損したときは交換してください。

取り付け時に市販のシリコングリスを塗布すると、リングとのなじみが良く、シール性も向上し、エア漏れが少なくなります。

補修部品は **HS-821 フィルターカートリッジ**、
 徳用10個入り **HS-820 フィルターカートリッジセット** もあります。



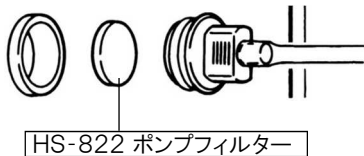
フィルターの交換

● フィルターOリングの交換

フィルターカートリッジのOリングは劣化します。シール性が低下したら交換してください。補修部品は **HS-826 フィルターOリングセット** とご用意ください。

■ステーション側

吸引力が低下しますので、定期的に交換してください。ポンプフィルターが著しく変色したときが交換の目安です。



ヒーター交換方法

HS-801のヒーターはヒーターユニットと、一体式になっています。セラミックヒーターは、ユニット内に接着されていますので、ヒーターのみ交換することはできません。補修部品は HS-810 ヒーターユニット とご用意ください。

1 電源スイッチを切り、電源コネクタを外します。ヒーターに余熱があるときは、常温になったあとで作業してください。

2 ハンドル止めネジ4本を外し、ハンドルB(1ページ「各部の名称」参照)を外します。



3 ヒーターからヒーターソケットを引き抜きます。このとき、必ずヒーターソケットをしっかりとつかんで作業してください。



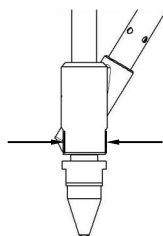
4 ヒーターユニットを外します。



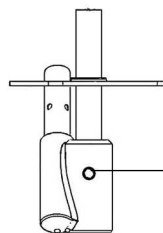
5 アース端子をヒーターユニットから取り外します。新しいヒーターユニットにアース端子を取り付けます。逆の手順で組み立ててください。



⚠ 注意



ヒーターユニットにノズルを取り付けるときは、ヒーターユニットの平行な面(左図参照、矢印部分)をスパナでつかみ、ノズルボックスでノズルを回してください。



このネジは組立構造上のものです。決してゆるめないでください。

ヒーター交換時の再調整方法

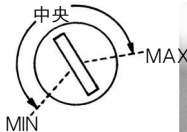
HS-801は出荷時に、ヒーターそれぞれが持つ固有の抵抗値に従って温度制御回路の調整をしてあります。ヒーターを交換した場合、温度制御回路の再調整が必要になりますので、次の手順で行ってください。

調整にはハンダゴテ温度計(約500℃まで測定可能なもの一当社H-767など)、マイナスドライバー(刃幅2mm以下)をご用意ください。

- 1 温度調節つまみをMAXに設定します。



- 2 温度調節つまみの下、トリマー調節窓の中のトリマーを可動範囲の中央付近に仮設定しておきます。



⚠ 注意

トリマーのMAX付近では瞬時に高温に達するため、セラミックヒーターが溶断する恐れがあります。必ず中央付近に仮設定してください。

- 3 電源を入れ、ノズル先端温度が安定するまで約2分間待ちます。
ハンダゴテ温度計でノズル先端温度を測定しながらトリマーをゆっくりまわし、480℃になるように設定します。

⚠ 注意

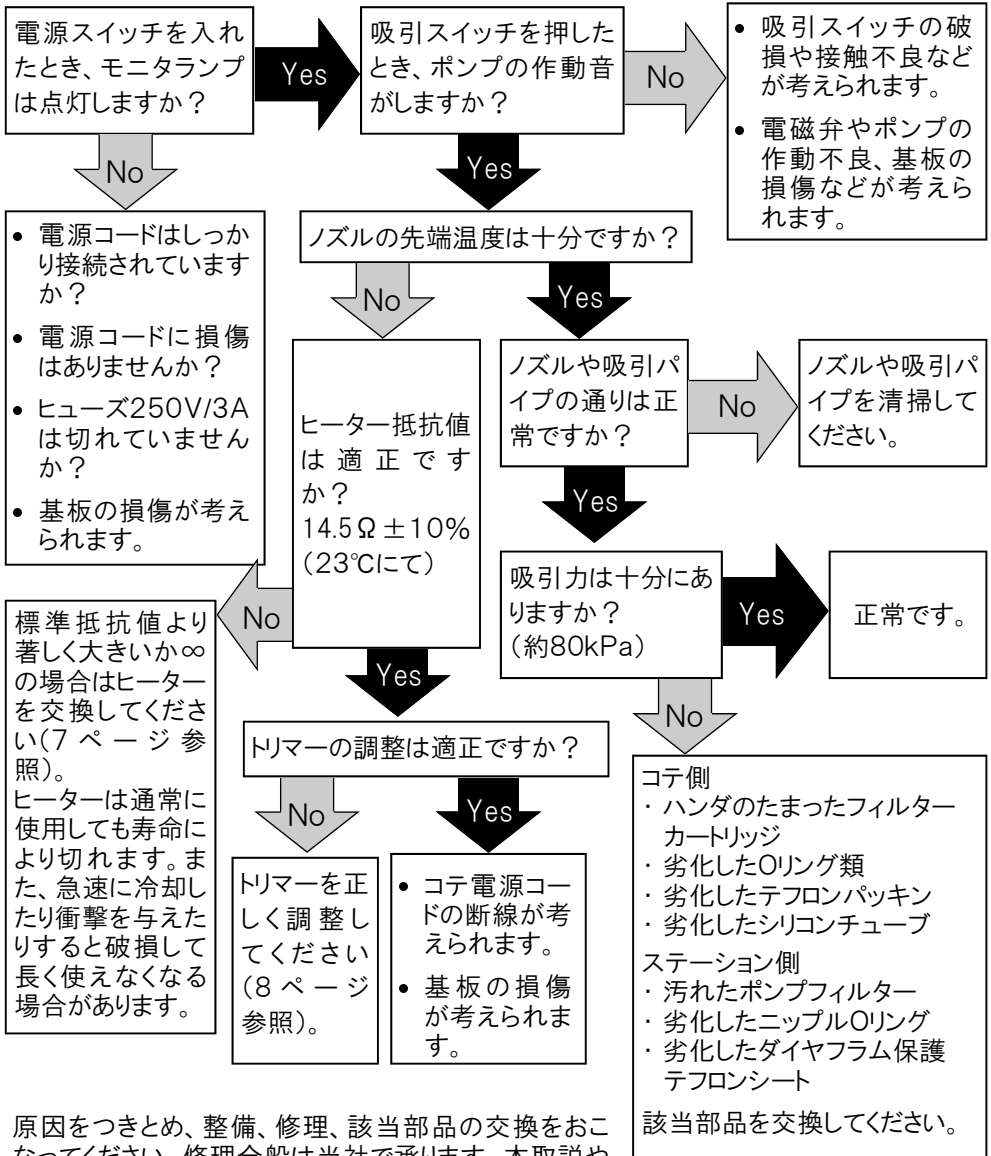
再調整をおこなわないままご使用になると、異常に温度が上昇する場合があります、大変危険です。再調整は必ず実施してください。



部品はホーザンの通信販売でもお求めいただけます。

トラブルと対策

機器を不調のまま放置して使用し続けると重大な故障に至ることがあります。一方、消耗部品の劣化などが原因ですと、清掃や部品交換で即座に解決する場合があります。以下を参考にして故障の状況を見極め、適切な処置を施してください。



原因をつきとめ、整備、修理、該当部品の交換をおこなってください。修理全般は当社で承ります。本取説やカタログに記載の消耗部品以外に、一部補修部品がお求めいただけます。

技術的なお問い合わせ

ホーザン テクニカルホットライン

TEL(06)6567-3132

月曜日から金曜日(祝日を除く)の 10:30~12:00、13:00~17:00

補修部品については、web上のパーツリストをご覧ください。

通信販売もご利用いただけます。 [ホーザン](#) [通信販売](#) [検索](#)

ホーザン株式会社

本社 〒556-0021 大阪市浪速区幸町1-2-12

TEL(06)6567-3111 FAX(06)6562-0024